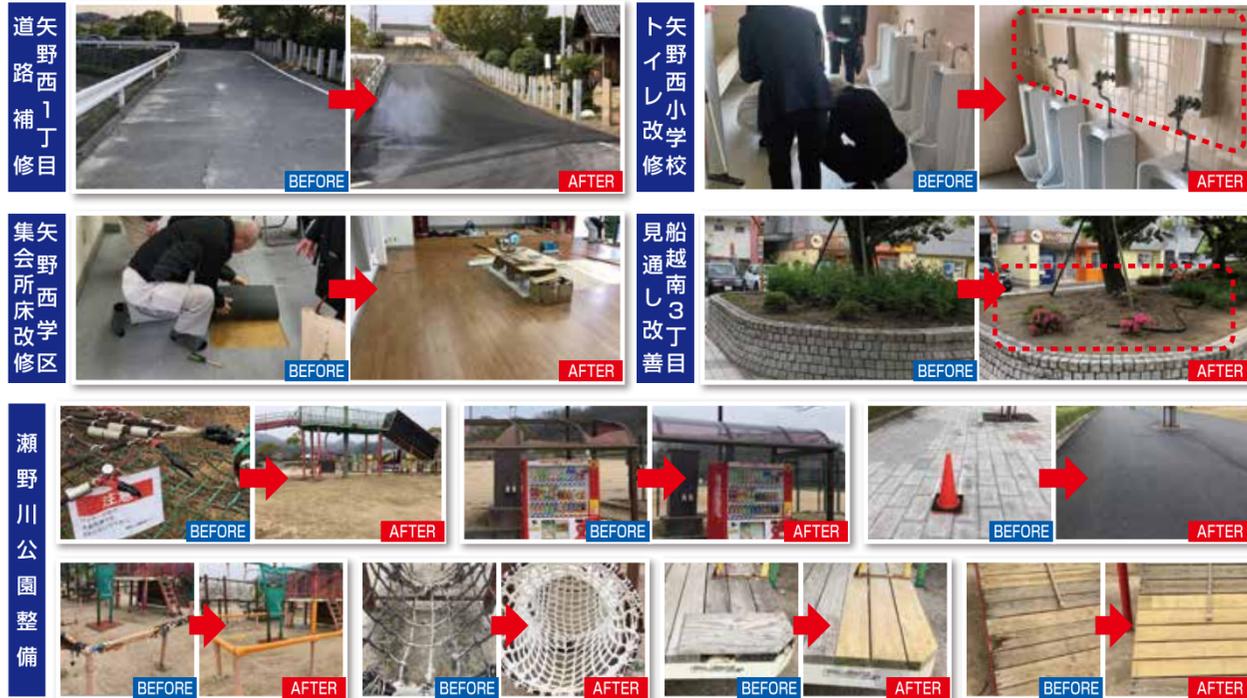


安心・安全・快適な暮らしを目指して



川口しげひろ 活動の様子

<p>視察(アグリ・給食) 2019.12/2-12/16 給食センター方式と自校調理方式の両方を視察させて頂きました。19年9月議会において、市の財政上、自校調理室の各校毎建て替えは不可能、給食センターを船越南の東部市場跡地に建設すればどうかと提案させて頂きました。</p>	<p>建設委員会 2020.1/21 無電柱化推進計画の策定について、市内中心部の無電柱化完了後、周辺区のメイン通りや交通量が多く道を広げることができない地域での無電柱化も考えてもらえるのかという質問をさせて頂きました。</p>
<p>安心社会づくり特別委員会視察 2020.1/27~1/29 大阪府高石市にてスマートウェルネスシティについて、大阪市において地域住民による自律的な地域運営の実現に向けた支援等、また、徳島市にて南海トラフ地震発生時の津波対策避難について視察をさせて頂きました。</p>	<p>矢野天神地区復興まちづくり 2020.2/8 平成26年8月豪雨にて災害が起こった安佐南区の八木学区、梅林学区、新建地区の復興まちづくりプランを参考に実際に復興に関わった広島市職員の方から説明、質疑応答などがあり地域の皆様と復興に向け話し合いをさせて頂きました。</p>
<p>熊野筆組合の方々と松井市長訪問 2020.2.10 熊野筆組合の竹森理事長はじめ役員の方々と安佐動物公園と熊野筆のコラボができないかというお願いに伺いました。松井市長も200万人都市圏構想を掲げられており、広島市と周辺市町が共に良くなり一石三鳥、四鳥になればと言って頂きました。</p>	<p>予算特別委員会(建設関係) 2020.3/11 平成30年7月豪雨災害について、瀬野川に架かる橋梁の復興について(河島橋・中原橋・塚地橋)の復旧状況や東部地区連続立体交差事業について着手時期や完成予定、完成後の船越地区のまちづくりについて質問をさせて頂きました。</p>

所属委員会等：建設委員会・議会改革推進会議・安心社会づくり対策特別委員会・広報委員会

川口しげひろ略歴
近畿大学工学部卒業
近畿大学大学院博士前期課程修了
自民党元幹事秘書
公設第1、第2秘書
国会議員政策担当秘書資格取得

市政に関するお問い合わせやご要望は
お気軽に **川口しげひろ事務所** まで
〒736-0083 広島市安芸区矢野東5丁目1-15 クスノキビル2F
TEL(082)824-7233 FAX(082)824-7232

Facebook: facebook.com/shigehiro.kawaguchi
Instagram: instagram.com/kawaguchi_shigehiro
Twitter: kawaguchi-shigehiro.com
E-mail: office@kawaguchi.cfn.jp
川口しげひろ



輝く安芸区の未来のために

広島市議会議員 安芸区

川口しげひろ 市政レポート

2020 夏号
vol.2

《自由民主党・市民クラブ》 〒730-8586 広島市中区国泰寺町1丁目6-34 TEL:082-504-2734 FAX:082-244-5210
この川口しげひろ市政レポートは、自由民主党・市民クラブの承認を得て発行しています。

ごあいさつ

広島市議会議員の川口しげひろでございます。
皆様方におかれましては、暑い夏をいかがお過ごしでしょうか。
1月中旬に中国武漢で発生した新型コロナウイルスにより、今や日本や世界の状況は激変しました。また、令和2年7月豪雨では、九州地方や中部地方で甚大な被害が発生しました。改めて、新型コロナウイルスや豪雨災害でお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げます。未だ闘病中の方や避難されている皆様が、一日も早く日常生活を取り戻すことができるよう切に願うところでございます。
さて、この度の6月議会のトップバッターとして会派を代表し、新型コロナウイルス関連について、平成30年7月豪雨災害からの復旧について等を中心に2度目の一般質問に立たせて頂きました。
引き続き、微力ではございますが、皆様のご期待に添えるべく全身全霊で取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

災害復興

<p>矢野南4丁目</p> <p>BEFORE</p>	<p>AFTER</p>	
<p>松井市長と復興現場視察</p> <p>矢野東 梅河団地内</p>	<p>瀬野町 仲橋</p>	<p>上瀬野 清山団地内</p>

令和2年 第4回 定例会 (6月8日~6月25日)

6月議会のトップバッターで「一般質問をさせて頂きました。」



高齢者いきいき活動ポイント関連(1)

参加率引き上げの為に、対象年齢の引き下げ以外に、メニューを増やしたりすることが有効ではないか。

ポイント事業を開始した平成29年度には1,176か所であったサロン等の数は、平成31年度には1,319か所に増えています。また、ポイント手帳送付時に、非参加者への声掛けのお願いなどを記載したチラシを同封して参加を呼びかけます。さらに、医薬品の適正使用による健康保持の増進を図る、いわゆる「ポリファーマシー対策事業」と連携した取組として、複数の医療機関から一定種類の数以上の薬を処方された高齢者が、本市から送付された服薬に関する通知をかりつけの薬局等に提示した場合や、対象年齢となったときに、骨粗しょう症検診を受診した場合、新たにポイントを付与します。こうした新たな取組については、本年9月からの対象年齢の拡大に合わせて実施することとしており、今後、本市のホームページやポイント手帳送付時に同封する事業案内等を通じて周知して参ります。



高齢者いきいき活動ポイント関連(2)

東広島市では似たような事業が開始され、府中町では本市との連携を念頭に事業を導入する予定と聞いており、周辺市町との連携も有効ではないか。

府中町は本年9月から事業の導入に向けた準備を進め、対象年齢を同じくする自治体として、行政区域を超えてポイントが付与できるよう、現在同町との間で事業内容などについて調整を行っているところです。さらに周辺市町の中には、東広島市のように、地域のボランティア活動については、40歳以上の市民を対象にした壮年期の段階からポイント事業を導入している自治体もあります。今後、こうした自治体との連携も視野に入れながら更なる参加率の引き上げとともに、引き続きポイント事業の着実な展開を図っていきたく考えています。

新型コロナウイルス関連(1)

アフターコロナ対策のための財源を確保するために、今後予定されている事業の見直しはあるか？ また、どういった事業を見直すか。

今後のコロナ対策の財源については、地方創生臨時交付金が大幅に増額されたこと等を踏まえ、まずはこうした国費を積極的に活用することとしています。その上で、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となる事業や規模を縮小する事業を中心に組み替えることで、財源を確保していきたいと考えています。



新型コロナウイルス関連(2)

夏休みや冬休み以外、土曜日や春休み等を使って授業日数を確保する予定はあるか。 学習内容が十分に定着できない児童生徒にどのような対応策をするのか。

4月15日から5月31日まで学校を臨時休業としましたが、その間の授業日数は29日であり、夏季休業と冬期休業の期間を短縮し、21日分の授業を確保しますがそれでも8日分不足します。この不足については、学校行事の重点化や準備時間の縮減、時間割編成の工夫などにより対応したいと考えており、土曜日授業や春休みの短縮については、現時点では考えていません。 学校再開後、学習内容の定着が十分でない児童生徒には、放課後や長期休業中を活用した補習学習などが必要に応じて行っていきます。その際には、学習指導員を活用することも、今考えています。また、小学校6年生及び中学校3年生については、次年度に学習内容を持ち越すことができないため、よりきめ細かな対応をする必要があると考えており、非常勤講師による少人数指導や個別の支援が必要な児童生徒への対応を行うことを考えています。



学校給食は、家庭の負担軽減や授業時間数の確保等の観点からも、できるだけ実施したいと考えています。一方で、従来は学校給食を実施していない期間であることから、多くの課題があります。教育委員会としましては、可能な限り給食を実施できるよう、給食に関わる業者等と調整を進めて参ります。

実現しました!

議会後、7/21~8/7(8/6を除く)及び8/24~8/31の平日計17日間、学校給食実施が可能となりました。

新型コロナウイルス関連(3)

精神的なストレスを抱えている子供たちの心のケアをどのように進めているのか。

児童生徒の状況を的確に把握するため、学校再開後、6月1日から6月12日までの2週間で、担任等が児童生徒一人一人との面談を行っているところです。現時点での学校からの報告では、概ね落ち着いた雰囲気でも順調なスタートが切れていますが、中には学校生活への不応が見られる児童生徒や、家庭での生活にストレスを感じている児童生徒もいるなどの報告を受けています。こうした個人面談で得た情報は、教職員間で共有し、専門家も含めた学校組織全体で支援を行うこととします。また、個人面談期間終了後も、定期的に教育相談を行うとともに、児童生徒の様子を注意深く見守るなど、状況把握に努め、悩みを抱えている児童生徒の早期発見・早期対応を組織的に進めて参ります。

西日本豪雨災害の復旧(1)

〈矢野中央線の整備について〉 1 海田町側の中小小学校線の整備状況について海田町からはどのような報告を受けているか。 2 矢野安浦線の整備中区間約400メートルについて現在の整備状況と今後の事業見込みは。

1 海田町側の中小小学校線については、全長約1.3キロメートルのうち、現在、矢野中央線に接続する約300メートル区間について整備が進められています。海田町からは、本年度秋に完成予定と聞いています。 2 整備中区間の用地取得率は、平成30年度末時点では約2割でしたが、令和元年度末時点には約4割となりました。引き続き、積極的に用地取得を進め、令和一桁後半の完成を目指して取り組んで参ります。

西日本豪雨災害の復旧(2)

〈有料道路広島熊野道路の無料化に伴う周辺環境について〉 1 無料化は何に基づいて決められているのか。 2 無料化後の交通状況の変化、シミュレーション等あれば試算結果について、また、無料化に伴う渋滞対策について、今後どのような取組を行う予定なのか。

1 広島熊野道路の料金徴収期間については、供用開始から30年間と定められており、広島県からは本年12月6日に無料化する予定であると聞いています。 2 無料化に伴う交通状況の変化については、1日当たりの交通量は旧道の矢野安浦線が約2万7千台から約1万6千台に減少し、広島熊野道路は約9千台から約2万5千台に増加すると予測しています。矢野地区の臨海部や熊野町側のトンネル出口にある平谷交差点においては、交通量の増加による交通混雑が予測されるため、広島県が主体となって、交通の円滑化を図るための対策に取り組んでいます。このうち、矢野地区の臨海部では、東部工業団地内に熊野町側から海田大橋へ向かう左折フリーの専用道路を昨年8月に整備しました。今後さらに右左折車線を増設する工事を行うこととしています。また、平谷交差点では、右左折車線を増設する工事を実施しています。こうした対策により、広島熊野道路の無料化後においても矢野、海田地区のマイカーやバスなどの交通は円滑に処理できるものと考えていますが、無料化後の交通状況を見ながら、必要に応じて対応を検討して参ります。

広島城天守閣の耐震診断結果について

1 広島城天守閣の木造復元は、本市にとってどのような意義があるか。 2 広島城天守閣の木造復元の実現可能性を高めるために工期や費用の検討に加え、復元費用を賄うための資金調達方法についても併せて検討すべきではないか。

1 原子爆弾で倒壊した広島城天守閣が、木造復元により当時の姿に蘇れば、市民の郷土愛の更なる醸成に繋がります。その結果として天守閣自体の価値が高まり、都心の回遊性を高め、本市の観光やまちづくりに大きく寄与することから、木造復元の意義は大きいと考えています。 2 木造復元を行う場合は、財源確保が大きな課題となることから、財政負担の軽減を図るため、資金調達方法を幅広く検討する必要があります。これまで、木造で復元された天守閣では募金活動や、天守に実際に使用する瓦に、自分の名前や夢などを墨書きしてもらうイベント募金を実施するなど、様々な資金確保策が講じられています。他都市における資金調達手法の事例も参考にしながら、必要な検討を進めて参ります。